



南アフリカ通信

No.11 (2023.5)

JICA 海外協力隊 (2022 年度 1 次隊)
小学校教育 北川裕介



今月末で南アフリカに来て 10 か月になります。ちょうど折り返しのタイミングです。ここでの生活や活動も残り半分だと思うと何だかあつという間な気がします。きっと日本へ帰る日もあつという間に来てしまうのでしょ。それまでに、「もっともっと自分の活動をがんばっていこう！」と思う今日この頃です。

さて、今回はそんな私の活動の様子と南アの教育の課題について書きたいと思います。

【どんな活動をしているの?】

『現地教員 (算数科教員) に対する授業のアドバイスを通して、児童の算数の学力向上に取り組む。』これが、シロアム小学校からの主な要請内容です。この内容を少しでも実現できるように日々活動しています。具体的な取り組みをいくつか紹介します。



授業の実施 (算数)



授業のサポート

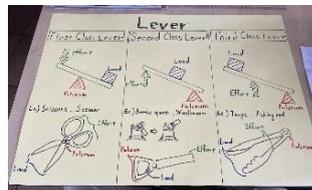


九九トレーニング



教員研修

技術や理科の授業のサポートもしています。少しずつ他の教科にも関わっていきたいです。



教材の作成・提供

休み時間にテスト。今は 4~7 年生で実施中。合格してスタンプゲット! みんなうれしそう!

【シロアム小学校と南アフリカの課題】

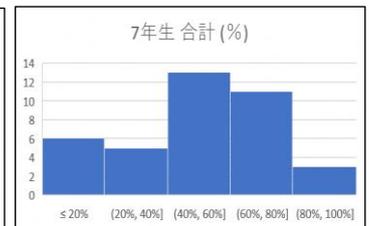
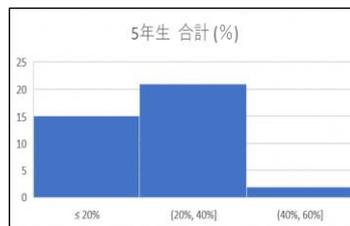
今月、5 年生と 7 年生に計算テストを受けてもらいました。もちろん問題は学習済みの内容です。

結果は以下の通りでした。

正答数の平均	5 年生	7 年生
1. たし算	2.9 問	4.1 問
2. ひき算	1.7 問	3.1 問
3. かけ算	0.4 問	2.4 問
4. わり算	0.2 問	1.4 問
合計	5.2 問 (26%)	10.9 問 (54%)

問題 (全 20 問)

- ① $3+4$ ② $23+6$ ③ $49+8$ ④ $65+17$ ⑤ $757+87$
- ① $8-5$ ② $28-4$ ③ $81-8$ ④ $72-57$ ⑤ $440-67$
- ① 6×9 ② 2×7 ③ 10×3 ④ 32×6 ⑤ 38×67
- ① $8 \div 2$ ② $24 \div 6$ ③ $95 \div 5$ ④ $306 \div 2$ ⑤ $589 \div 31$



合計正答率の平均は 7 年生で約半分という結果でした。実はテスト中にカンニングをしたり、こっそりと電卓を使ったりする子を発見したので、それぞれの学年の平均点はもっと低くなると思います。(その子たちの結果は除いています。)

5 年生は 35% 以下がほとんど。7 年生は 45~75% が多く、学力差が目立つようになります。

また、子どもたちの計算方法を見てみると、筆算ではなく棒の線を書いて数えている子が半分近くいました。かけ算では、九九ではなくたし算で時間をかけて答えている子もいます。わり算は筆算で解こうとしている子が数名いましたが、九九が定着していないのか、やり方を忘れたのか、途中であきらめていました。

棒の線をがんばって数えています。



この結果と子どもたちの様子から、学習内容が十分に定着していないことがわかります。

IEA（国際教育到達度評価学会）が進めている TIMSS と呼ばれる算数・数学及び理科の到達度に関する国際的な調査の最新（2019年）の結果は、
 小学校4年生算数：56位/58の国と地域（日本は5位）
 中学校2年生数学：38位/39の国と地域（日本は3位）
 このように、南アでは算数が苦手な子どもたちが多いのです。



【算数（勉強）が苦手になる理由】

これまでのシロアム小学校での活動経験といろんな人の話から現時点で考えられる理由を書いてみました。もちろん南ア全ての学校や先生、家庭、子どもたちが以下の理由に当てはまるわけではありませんが、このような実態があるのは確かです。

環境要因		人的要因	
学校 <ul style="list-style-type: none"> 古い黒板（文字が見にくい） 児童の教科書がない。（ワークブックはある） 時計がない。（普段から時間を意識しない）→日頃の生活で数字に触れる機会が少ない。 教室不足（1クラス70～80人）→ノートを広げるだけでも大変。すぐに騒がしくなる。教師の目が届かない。 	教師 <ul style="list-style-type: none"> 知識が不十分（十分な教育を受けられなかった教師も多い）→間違っって教えていることもある。 適切な指導法を知らない（答えだけ教える、ノートに写させるだけ、棒でたたいて叱るなど） 自分のことが優先（授業中でも電話がかかってきたら出る、ご飯を買いに行く等） 教材準備など時間のかかること（めんどうくさいと感じること）はやらない。 		
国や地域（制度など） <ul style="list-style-type: none"> 4年生から英語で指導（教科書等も英語表記）→先生の言っていることや書いていることを完璧に理解するのは難しい。 教員不足 カリキュラムに系統性がない。 学習内容に対して、授業時数が少ない。 	保護者 <ul style="list-style-type: none"> 十分な教育を受けられなかったために、教育の必要性を感じず無関心になったり（子どもの文房具を買わず食費に回すなど）、子どもに宿題などを教えられなかったりする。 		
家庭 <ul style="list-style-type: none"> 貧困家庭が多く、学校以外の時間は子どもも生活を支えるために働いたり、手伝ったりする。 児童養護施設から通う子も多い。 	子ども <ul style="list-style-type: none"> 楽な方に流れる。正確には、周りの環境がそのようにさせてしまう。（電卓を使う、友達の答えを見る、分からなくてもそのままにするなど） 		



3年生の算数の教科書です。現地語ですね。ブロックがあると分かりやすいけど、道具はありません。



教科書とちがう方法で教えている……。それに計算問題なのに電卓を使っている。意味がない……。